



## 自分のものは自分でつくる。「ワラ細工」

六十年以上にもわたりワラにこだわり、現在もしめ飾りや民芸品など、ワラ細工をつくり続ける職人がいます。

昔は今と違って靴や笠などワラでつくられていたものが多く、その大半が自分でつくらなければならぬ時代でした。「それがワラ細工との出会い」と当時を振り返り話してくれました。当時は生活に密着していたワラも今では正月のしめ飾り等需要は少なくなってきたとはいえ、このきめ細かな技には目を見張るものがあります。

現在はしめ飾りのほか、民芸品を創作する毎日ですが、ビニールテープで鮮やかな色合いを出すなど新しい試みも忘れません。昔の生活様式や伝統を後世に伝えるためにもなくてはならないワラ文化。このようにワラ細工をつくり続ける人によって、その魅力と技は確実にこの村に伝承されることでしょう。

岩瀬村には伝統の技を活かし、

福島県のなかでも指おりの熟練者が数多くいます。

ワラ細工とまゆ工芸は村を代表するもので、

岩瀬のピーアールにも一役かっています。

